

社会福祉施設との協働でひろがるまちづくり

～人と地域をつなぐ地域公益取組～

2023(令和5)年10月27日、キャンパスプラザ京都で地域共生社会の実現に向けた地域と施設の協働を考えるシンポジウムを開催。施設、当事者団体、地域の活動者、行政など91名の参加があり、よりよい地域づくりと一緒に考える新たな交流の場となりました。

人々の暮らしをより豊かにするために、
 地域と施設の新たな協働を。

志藤 修史 さん (大谷大学社会学部 教授)



地域と施設との長年の努力により、交流と協働が積み上げられてきました。

施設は社会福祉事業を通じて地域の暮らしを支えており、地元には施設があることは地域住民の暮らしに安心感



をもたらししています。また、施設が利用者の暮らす地域を知ることで生活をより豊かにし、施設の民間性を活かした先駆的な地域公益活動で、制度にあてはまらない部分への支援にも取り組んできました。

しかし、こうした取組は、コロナ禍によるボランティア不足、地域活動者の高齢化、施設職員不足、困難な施設経営など、厳しい状況に直面しています。

これらの課題を克服するためには、分野を超えて知恵を出し合う必要があります。今後は、地域住民にとってケアがないと成り立たない社会となるでしょう。だからこそ、交流と協働を取り戻し、気づいたこと・できることから始めていく姿勢が大切です。

1 地域の課題と一緒に取り組む事例

理解者・協力者との出会いを丁寧に紡ぎ、
 気づいた課題に“今できること”から取り組む。

楠 りつこ さん (社会福祉法人白百合会 リ・プラン京都中京 理事長)



就労継続支援B型事業所「リ・プラン京都中京」と「リ・プラン京都西京」を運営している社会福祉法人白百合会。約40年前にカトリック教会の敷地内で重度身体障害者共同作業所を開所したことが礎となっています。

「リ・プラン京都中京」の設置にあたり重視したのは、地域の方々に受け入れられ、共感できる関係になること。そこで三条通りに面した一階にカフェを開き、地域交流の場としたところ、多くのお客様で賑わうように。町内会の役員会などにも使われるようになりました。

地域の皆さんに受け入れられたご恩返しをしたい。そんな思いから取り組んだのが、子ども達への食事と学習の支援活動「こどもの城・セカンドテーブル」でした。

宿題のサポートや夕食の提供だけではなく、塾

の講師や学生が中心となって国語や算数、英語、プログラミングの授業、脳トレなどを実施しています。経済格差が学力格差につながる中、どんな家庭の子どもも学力を伸ばせる体制を整えています。

来年度からは中学生を対象とした学習支援活動を始める予定で、子ども達の見守りと地域交流の場としてコミュニティカフェが開設、運営されます。



2 利用者の力を地域に活かす・生きづらさを抱える方を社会参加へつなぐ事例

“できること”で地域に活躍の場を作る。
 既存の事業を活用して施設の強みを活かす。

岩崎 由香里 さん (小規模多機能・グループホームかたぎはら 副施設長)



認知症高齢者の居場所づくりを通して出会ったのが「大原野よもぎ倶楽部」。よもぎと触れ合うことが認知症の方の脳に良いとの話もあり、利用者がよもぎ摘みに協力しました。摘んだよもぎは商品化され地域の活性化の取組につながっています。施設に持ち帰ってのよもぎ茶葉の袋詰め作業は、京都中央看護保健大学校との協働。学生からは「認知症の方がこんなに



にできることに驚いた」と、利用者からは「楽しいわ」「もっとしたい」との声があがりました。

また、施設では「チャレンジ就労体験事業^{※1}」に地域公益活動として協力しています。本人のペースに寄り添いながら、掃除などの作業を週1回2時間から始め、少しずつコミュニケーションできるようになり、体験終了後に臨時職員として採用されたケースもあります。福祉職の強みを活かして既存の事業を活用した取り組みやすさと、取組を通して施設の職員不足の一助につながる利点がありました。

こうした取組の積み重ねが、さまざまな生きづらさを抱えた人が地域の一員として役割をもって共に心豊かに暮らせる社会につながると思っています。

※1「チャレンジ就労体験事業」一般就労が難しい方に施設等での就労体験を通じ就労の自立を図る事業。

グループでの情報・意見交換

「できることから始めよう、協働でつくるまちづくり」

- ・地域には複合的な課題を抱えた人が多く、ネットワークで知恵を寄せ合って考えることが大事。
- ・新しく取組を作り出すことは難しいが、地域に声をかけてもらえたら協力したい。
- ・コロナ禍を経て、ゆるやかにつながりながら、活動者も楽しめる取組が増えている。
- ・フードパントリーなど、複数の施設・団体で協働する取組もある。



区毎に、施設・推進委員会・行政・区社協などで意見交換をしました

参加者の感想

事例から小さな取組でも地域と交流できることを知った。地域でのつながり・交流が大切と感じた。

地域の関係者間での“顔の見える関係づくり”ならすぐに取り組みそうに思う。

同じ区内で分野を超えてつながり、意見交換することができてよかった。

